

# JAPAN WATCH



スペシャル・レポート 日本株スペシャルレポート

2007年8月17日

## 日本株式市場の調整について

7月下旬からの日本株市場は不安定な展開が続いておりますので、最近の状況につきましてご報告いたします。

### 主要株式指数の騰落率

騰落率(現地通貨ベース)	2007/7/26 ~ 2007/8/16	2007/8/16
日経平均株価	8.78%	1.99%
東証株価指数(TOPIX)(配当込)	9.77%	1.67%
東証2部株価指数	9.59%	1.99%
JASDAQインデックス	7.06%	1.58%
東証マザーズ指数	14.46%	3.03%
大証ヘラクレス指数	13.48%	2.60%
米国:S&P500種指数	4.81%	0.32%
欧州:MSCI欧州株価指数	5.39%	3.50%
アジア(除く日本):MSCI AC77アー・イースト・アフリ(除く日本)	13.56%	4.92%

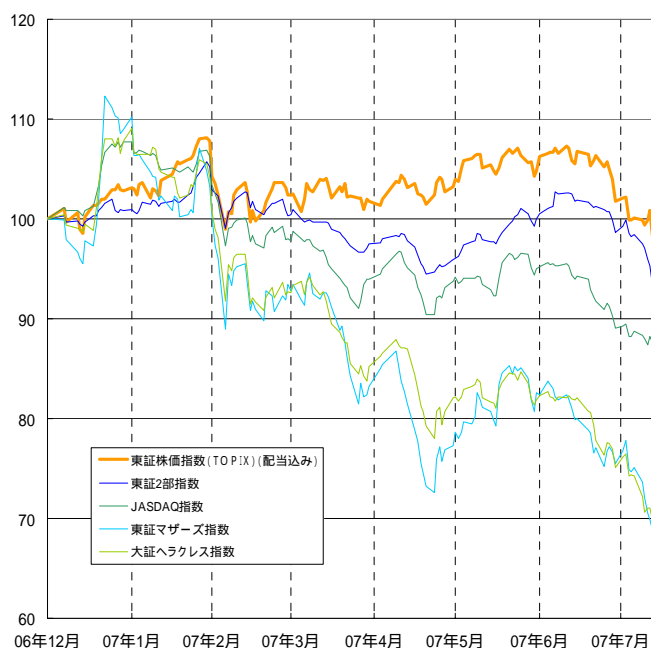
注: Bloombergよりフィデリティ投信作成 期間: 2007年7月26日 ~ 2007年8月16日

### 米ドルの騰落率(対円レート)

通貨	2007/07/26 ~ 2007/08/16	2007/8/16
米ドル	4.27%	2.58%

注: RIMESよりフィデリティ投信作成 期間: 2007年7月26日 ~ 2007年8月16日

### 日本株市場の推移



注: Bloombergよりフィデリティ投信作成

期間: 2006年12月末 ~ 2007年8月16日 2006年12月末を100として指数化。

データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として申し述べたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。またデータは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。I 070816-3

### 株式市場動向

8月16日の日本株式市場は、日経平均株価が前日比327円12銭(1.99%)安の16,148円49銭となりました。

また、東証株価指数(TOPIX)も前日比26.69ポイント(1.67%)安の1,567.46と下落しました。前場は、15日の米国株式市場が大幅に調整したことなどが懸念され、約8カ月半ぶりに16,000円大台を割り込む局面が見られましたが、後場には値頃感から押し目買いが入り、16,000円台を急速に回復しました。

### 株価下落の背景

7月下旬から、米国における信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)の信用リスク懸念が広がっていたことに加え、為替も円高・ドル安に振れたことなどが嫌気され、日本株式市場は不安定な展開が続いていました。直近の8月16日の日本株式市場の下落に関しては、主に以下の要因が考えられます。

#### 米国株式の下落による投資家心理の低迷

15日の米国株式市場は、米大手証券による住宅ローン大手の投資判断引き下げなどを背景に、信用不安に対する懸念が広がり、金融株を中心に大幅に調整しました。

#### 円高・ドル安

ドル円相場が主力企業の今期の想定レート近辺である1ドル=115円台にまで上昇し、輸出関連企業の収益減速懸念に繋がったことも投資家心理にマイナスの影響を与えたものと考えられます。

### 今後の動向

今回の株価調整は、前述のように海外の株価調整が主な背景であると考えられます。国内景気は拡大を続けており、企業業績も2008年3月期決算で戦後最長となる6期連続の経常増益が予想されるなど引き続き堅調です。

サブプライムローン問題の動向やその影響など、今後の動向について見極める必要があるものの、中長期の日本株式市場に対する前向きな材料に大きな変化があったわけではなく、市場を取り巻く環境は良好であると思われます。

調整局面こそ長期成長力の見込める市場への投資機会であると考えます。

